

トロントニアンズに聞きました。『今年のResolutions！』

早いもので2010年も終了し2011年が幕を開けた。日本に居た頃は、「今年の抱負は何ですか?」と街角でインタビューされている市民をTVでよく見た事がある。一般的な抱負が、「禁煙」「ジムに通う」「良い人になる」「世界平和に貢献する」「貯金する」「出世」などが挙げられる。ここトロント市民はどのような抱負があるのだろうか。今回は、トロントを代表する著名人達の今年の抱負を紹介したい。

トロント新市長のRob Ford氏は、「エクササイズを再開して体重を減らす」との事。とは言っても、食べる事が大好きで、体重を減らそうと20年間思い続けているようであるが、実現してはいないようだ。本人的には深く考えていない様子が伝わってくる。アクターでもありラッパー&歌手のDrakeは、「母親と祖母にもっと電話を掛ける事」。忙し過ぎて機会を逃してしまうようだが、自分が愛する人と常に連絡を取りたいとの事だ。最後はトロント市議会議員の皆さん。個人の名前は発表されていないのだが、殆どが個人的な抱負ではなく政治関係の回答であった。プライベートの抱負を聞いてみると、「健康を考えて家族と過ごす時間をもっと増やす」との声が多かった。カナダ人も日本人と同じように、基本的な幸せを願っているようである。

『市民』への道は険しい!? 『市民権テスト不合格率が上昇』

移民の国カナダでは毎年約30万人の移民申請が受理されていると言われる。一般的には永住権取得後にある一定期間カナダに住み、納税状況や犯罪歴に問題が無い等の一定の条件をクリアすれば市民権の申請が出来、そのプロセスとして市民権テスト受験のチャンスも与えられる。毎年約15万人がこのテストを受験しているとされ、選択式の筆記試験と公用語である英語かフランス語によるスピーキング試験の計2つを受ける必要がある。また、そのテストの合格率は平均97%と高いものであった。

しかし、最近のカナダ移民局の報告によるとその試験内容改定に伴い、合格点に達しない者の割合が30%までに上昇したというのだ。比較的容易にパスできる試験と認知されていたが、この改定による影響以外にもカナダの歴史や文化、政治に元々無知な受験者も多いようだ。この不合格率の上昇によりテスト内容が更に見直され、どうにか20%までになったようだ。

そこまで難しいものなのか疑問に思うところだが、聞くところによるとこのテストは移民局から試験申し込み後に送られるテキスト内から出題されているようだ。テスト問題としては、「選挙権があるのは?」との一見シンプルな質問もあるのだが、市民権と永住権は同じものではないのに対し、「永住権取得者も選挙権がある」と勘違いしている人も多いようである。実際に選挙権があるのは市民権取得者のみである。

本格的なトロントの冬を乗り越える為の、『Big Fat Burrito』

トロント発信のNewsLetterではいつもお勧めレストランを紹介している。と言うのも、CNタワー、美術館、ナイアガラやロジャースセンターなども観光名所として有名で魅力的だが、私にとってトロントは「食の街」となっている。これから渡加される生徒さんには是非、ダイエットなどと言ったタフな課題は日本に置いて来ていただきたい。そしてトロントの食を大いに楽しんでいただきたい。

さて、とにかく今回紹介したいのはヴィンテージショップやチーズなどの専門店、お洒落なカフェ等が立ち並ぶケンントンマーケットにあるメキシコ料理、ブリトーのお店だ。ポーク、ステーキ、チキン、ヤム、ベジなど種類も豊富で、トマトやアボカド等のたっぷり野菜、チーズ、ビーンズ、ライス、サワークリーム、チリソースがぎっしり詰まったブリトーは店の名前の通り大変ボリュームがある。また、具の組み合わせも自由に選べる。躊躇わず口を大きく開けてかぶりついて欲しい。



写真左は人気のヤム&ポークブリトー

トロントのお勧めベーカリー、『Tatsu's Bread』

トロントの食の中で満足していなかったのがベーカリー。ポルトガル系のベーカリーは美味しいのだが種類が豊富ではなくクワツサン等もイマイチと思っていた矢先に発見したのが、日本人オーナーのベーカリー、『Tatsu's Bread』だ。ナッツやレーズン、チーズが入った本格的なローフ、フレッシュなサンドイッチ、サラダにスープ、キッシュやケーキなど様々なメニューが楽しめる。また、毎週土曜日や日曜日には近郊のカレッジに通う生徒さんがジャズ演奏を行うのも楽しみだ。お勧めはほうれん草とフェタチーズがたっぷり入った「スピナッチベーグル」だ。写真右は野菜たっぷりの「ベジサンドイッチ」。



『<体験談> UCCBT のEMA(英語教授法)を受講後にスティーブリーコック校にてインターンシップをされた Ms. Tamezawa Mariko』

スティーブリーコック校で、私は素晴らしい体験をすることができました。短い期間でしたがたくさんのお話を学ぶことができました。私はESLのセクションに所属し、科学、文法、リーディングの授業に日々参加しました。科学の授業で、私は先生からたくさんのお話を聞きました。このクラスの生徒は5名で、ジャマイカやイラン、フィリピンなどが彼らの出身地でした。はじめ、彼らのアクセントが強く、何を言っているかわからず戸惑いましたが、注意深く聴くよう努力しました。

クラスのトピックは病気と体の名称についてで、ハンドアウトを配り消化機能について生徒に教えました。文章をまとめたり、それぞれの消化機能の意味について答える必要があったりと内容が複雑だったため、生徒たちが確実に答えをおさえられたり、答えを黒板に書く時間を短縮できるようOHを使ったりしました。その効果あつてか、生徒たちは授業に集中することができたと思います。

UCCBTのEMAで学んだことを活かし、全ての生徒が答えられるよう気を配ったり、はっきり大きな声で話すよう努めました。これは、科学の先生にも褒めていただきました。先生と私で、授業について振り返り、実際に私が英語の教員になった際に注意すべき点を話し合いました。1. 自分が思っている以上に生徒は時間を必要とするため、時間に余裕をもつこと 2. 宿題の答えを確認することに時間をかなり割ってしまったため、75分間というトータルを意識し時間配分には気をつけること 3. 緊張しないためにも、準備や練習を怠らないこと。

リーディングのクラスでは、生徒が本を読む際に手伝いました。何人かの生徒は読むことに苦勞せず、内容もよく理解できていましたが、他の生徒でそれらができない生徒たちもいたため、内容を説明したり、発音を直したりしました。生徒たちのほとんどは中国から来ており、よく中国語で話していました。生徒たちに中国語を話さないよう強制することはできませんでしたが少しでも彼らの勉強になるよう、英語でよく話しかけるよう意識しました。

もしもう少し時間があつたら、もっとたくさんのお話を聞きたと思います。EMAで学んだことを活かし、ESLのゲームを科学的時間用に考えたりしましたが、時間がなく実際にすることはできませんでした。実際の授業では、アクティビティーやゲームに思うように時間が割けないのだということに気づかされました。それでも、教科書どおりに授業を進めるより、アクティビティーを用いるなどクリエイティブに活動した方が、生徒のモチベーションにつながり、楽しめることができるということを、特に科学の先生から学んだと思います。

私はこちらの学校をインターンシップ先としてお勧めします。先生や生徒たちはとてもフレンドリーですし、私に何か困ったことがあると先生たちはいつでも助けて下さいました。さらに、機会があればフィールドトリップにも参加できます(私はROMとイトンセンターに行きました)。学校でのイベントや、アセンブリーにも出席できます。また、カナディアンの子供たちも登校しているため、彼らの様子も垣間見ることができます。もっとこの学校に通いたい気持ちでいっぱいですが、将来英語の教員になった際に、こちらの学校の先生や生徒たちから学んだことを思い出したいと思います。



生徒さんと一緒にのタメザワ マリコさん